

JST中国総合研究センター緊急シンポジウム
「中国新体制下での日中関係」

「党大会後の中国政治と日中関係」

東京大学大学院教授 高原明生

2012年11月29日

2006年10月 安倍訪中



「戦略的な共通利益に基づく互恵関係
＝戦略的互恵関係」の構築で合意

日中関係の強靱性と脆弱性

- 強靱性——経済的相互依存、社会・文化交流、非伝統的安全保障協力
- 脆弱性——歴史問題、安全保障問題、尖閣問題、相互不信、ナショナリズム

⇒強靱性の強化、脆弱性の解消を目指せ

日本政府による尖閣購入への 中国側の対抗措置

- 反日デモの容認（一部暴徒化）
- 尖閣海域への公船の派遣
- 日本製品不買運動への理解の表明、日本への団体観光旅行停止
- 文化交流事業の延期

中国の事情

- 米国のアジア回帰への警戒（注：08年の米国発世界金融危機の影響）
- 強硬派と穏健派の論争——前者の勝利
- 激烈な反日プロパガンダによる反日感情の高まり
- 社会における不満と不安の増殖（汚職腐敗、縁故主義、不平等）
- 党大会に向けた熾烈な権力闘争

習近平政権の発足

- 党大会報告——外交部分は5年前と大差なし
- 「就任演説」に見る政権の方向性—民族への責任、人民への責任、党への責任、の順番
- 国民統合と安定の維持が最大課題
——ナショナリズムへの依拠は前の政権と同等、ないしそれ以上？

戦略的互惠関係に戻れるか ——日本外交への期待

- 力による現状変更の試みには屈しない——中国は日中平和友好条約違反ではないか
- 2012年コンセンサス——主権については“agree to disagree”、中国は船を出さないという条件で日本は1972年以来の状態の維持に努める
- 共通利益と大国としての責任の確認、近隣諸国、国際社会への働きかけ
- パブリック・ディプロマシー、そして今こそ真の民間交流を
- 日中戦争で加害者であったことを忘れない